

北海道新幹線並行在来線対策協議会 第12回後志ブロック会議 議事録

〔 日 時：令和4年2月3日（木）11:00～11:25
場 所：ホテル第一会館（倶知安町） 〕

1 開 会

2 挨拶

【北海道交通企画監（座長）】

本日は、お忙しい中、「北海道新幹線並行在来線対策協議会第12回後志ブロック会議」にご出席いただきまして、ありがとうございます。

また、本会議の開催にあたりまして、全道的にまん延防止措置等重点措置を踏まえまして、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組が行われている中、このようにお集まりいただきまして、ご理解をいただいたことに、深く感謝申し上げます。

さて、新幹線開業後の地域交通のあり方につきまして、昨年4月以降、本協議会におきまして本格的な議論を進めてまいりました。昨年12月に開催したブロック会議では、「長万部・小樽間」における地域交通の方向性について、年内に鉄道やバスなど3つの交通モードから絞り込むという合意に基づいて、沿線自治体の皆様から方向性の確認をさせていただきました。

その結果として、「余市・小樽間を鉄道方式」としたのは1つの町、それから「バス方式」としたのは4つの町、また、「態度を保留」としたのは1市3町となったわけでありまして、ブロック会議での方向性の確認にまでは至らなかったというところであります。

こうした結果、本日の会議では、態度を保留されました沿線自治体の皆様から、引き続き、議会や住民への説明を経た上での方向性について、改めてお伺いしたいと思ひまして、今日の間を設けさせていただきました。

沿線自治体の皆様におかれては、様々なご事情がある中のご判断されるという厳しい状況でありますけれども、道といたしましては、地域交通の確保方策の方向性決定に向けて、ブロック会議や幹事会において、皆様と議論を深めていきたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしく申し上げます。

3 議 題

（1）「余市・小樽間」個別協議について

【北海道交通企画監（座長）】

前回のブロック会議において、余市町は「余市・小樽間を鉄道」、小樽市は「保留」とされたことから、今後の方向性について関係者において協議させていただく、としたところであります。

先日、1月20日に、小樽市長と余市町長ご出席のもと、3者で個別協議を開催いたしましたので、その開催結果を事務局から報告させていただきます。

（事務局から資料1について説明）

この件に関しまして、小樽市さん、余市町さん何か補足ありますか。（なし）

それでは、「余市・小樽間」について、関係者間での協議を断続的に行い、令和4年の早い時期に方向性が決定できるよう取り組んでまいりたいと思ひます。

（2）沿線市町の協議状況について

【北海道交通企画監（座長）】

沿線市町の協議状況について、前回のブロック会議で方向性について保留とされた市町におか

れましては、その後、住民や議会との協議を行ってきたものと承知しておりますので、資料2で、沿線自治体における住民説明会等の協議状況を取りまとめておりますので、これは後ほどご覧いただきたいと思ひます。

それでは、前回保留とされました市町の皆様から、協議の状況、それから皆様のお考えについてお伺ひしたいと思ひます。

【ニセコ町長】

議会等での議論を踏まえて、「バス転換やむなし」と判断しましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。その上で、ブロック会議の過去の会議におきましても、私は鉄道についてはその価値が大変重要だということを書いてきました。今、余市、小樽で議論されていますけど、鉄道がもし残せるものなら残したいという前提で、余市・小樽間の鉄路が残るのであれば、それは北海道にとっても価値あるものではないかと考えております。

【蘭越町長】

蘭越町としては、12月のブロック会議終了後、町民に新たに意見を聞き取りました。その結果を踏まえて、1月、議会とも協議をして、蘭越町としては、「全線バス転換方式にしたい」ということで決定させていただきましたので、報告させていただきます。

【黒松内町副町長（町長職務代理者）】

本町も前回の会議終了後、経済常任委員会を開催いたしまして、その中で、本町の財政状況等から見ても、やはり大きな負担を残すべきではないというところで、バス転換支持の方向で、議会の方からもご理解を得られましたので、本町といたしましても、「バス転換」ということで、ここでご報告を申し上げたいと思ひます。

【小樽市長】

小樽市の協議状況について、お知らせさせていただきたいと思ひます。今日の資料にもございますけれども、小樽市では今週末から2巡目になりますけれども、住民説明会を行って参りたいと思っております。1巡目では、基本的に鉄道を残していただきたいという声をいただきましたけれども、2巡目の意見交換会では、バス転換という選択肢があるわけですから、地域住民の皆様方には、どういった条件であれば、バス転換についてお考えをいただけるのかどうか、そのあたりを投げかけてみたいな、と思っております。

もう一つは、12月末に開かれました第11回ブロック会議で、国の見解もお示しされたわけですから、そういった国、あるいはJR北海道からいただいた見解なども地域住民の皆さんにお伝えして参りたいと考えているところでございます。

【北海道交通企画監（座長）】

ただ今、皆様からご説明いただきました。黒松内町、蘭越町、ニセコ町についてはバス方式ということ、それから小樽市については、再度住民説明会を踏まえたいということでありました。

確認の意味で、この後志ブロック会議で協議を行っている「長万部・小樽間」のうち、今日の結果をみて、「余市・小樽間」は引き続き協議、それから「長万部・余市間」については、まずこの区間は「バス転換」ということで皆さんよろしいですか。

（異議なし）

この方向性がまとまると私も理解しますので、まずは「長万部・余市間」については、第10回ブロック会議でお示しましたバスの案につきましても、具体的にバス会社と協議を進め、現実のものとしていかなければならないと思ひますので、まずは幹事会で調整させていただいて、

しかるべき日にまた皆様に報告させていただくような形を取らせていただきたいと思います、それでよろしいですか。

(異議なし)

「余市・小樽間」については、小樽市が保留ということでもありますので、引き続き三者会議（個別協議）の方で、私が招集させていただきたいと思っておりますので、時期はまだ十分ありますけれども、小樽市の住民説明会の状況を見て、招集させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

本日のブロック会議の議題は以上になりますが、他の町から意見があればお願ひします。

【余市町副町長】

本日、齊藤町長が別の公務のため、欠席させていただいておりますので、代わりまして、町長から今回メモを預かってきておりますので、若干お話をさせていただいて、今後の展開等もお伺いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

まず、余市町の方針でございますけれども、改めて伝えますけれども、「大量輸送と迅速輸送の観点から、余市・小樽間は鉄道に分がある」という考え方は、現在のところ方針としては変わっていないというのが現状でございます。さらに、余市・長万部間についてはバス転換ということで特段異論はないということで今、確認をいただいたのかなと思っております。

その上で、仮に鉄道を維持するといった場合、広域公共性に鑑みて、財源は基礎自治体のみで行うものではなく、国及び都道府県レベルの財政的な支援が必要不可欠であると考えておまして、北海道は鉄道の維持に財源を出すつもりがあるのかどうか確認させていただきたいと思おますし、そういった方針については知事まで決裁を取った上での判断なのか確認をさせていただきたいというところでございます。

また、現在のところ、保留自治体を除いて、全ての自治体がバス転換ということでもありますけれども、北海道として、この地域の公共交通を俯瞰して、どうしたいと考えているのか、道の方針についても確認をさせていただきたいと思おますし、この方針につきましても、知事としてどのように考えているのか、決裁等で確認をされているのか、教えていただければ有りがたいと思おっています。

仮にこれらの方針等の話について、知事の確認が取れていないことであれば、是非とも知事の方から私達に方針等を表明していただけるようお願いしていきたいと考えております。

この旨、町長からのコメントでございますので、この点お話しさせていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。

【北海道交通企画監（座長）】

2点ほどありましたけれども、まず、道が財源を出すかどうかという話ですが、先般の第11回ブロック会議で、国が支援しないということは国から明言されました。それを受けて、我々としては、鉄道の維持存続というのはルールがございませんので、小樽市が鉄道ということを表明されるのかどうかというところがあります。それが無い中では、負担するしない、は少し拙速ではないかと思おますので、皆さんが鉄道を維持する、といった場合については、きちっと考えたいと思おますが、今の段階では態度を保留させていただきたいと思おます。

また、道として、地域公共交通をどうするのかといった点ですが、今、まさに後志管内で公共交通計画を作ろうということで作業を進めさせていただいております。我々としては、そういう場を使って、考え方を示したいと思おますが、先日、三者会議（個別協議）でも町長からお話がありましたので、この考え方については、また三者会議（個別協議）の場で私の方からお示しさせていただきますたいと思おます。

他にございますでしょうか。

【共和町長】

町の考えは変わるものではないんですけど、一つちょっと教えていただきたいことがあって、余市・小樽間の関係で、余市町長は輸送密度が2,000人と主張されておりまして、2030年度からスタートするという考えに今は立っていると思うんですね。その時(2030年度)の輸送密度は資料によると1,493人ということになっていまして、努力することで2,000人にすることはできるかもしれないけど、今の試算としては1,493人であること、というのと、それは長万部などから乗ってきた人が足された人数なのか、余市から乗った人数になるのか、教えていただきたい。南の方からすると、バスとした時に、私ども、もしかしたらそこは乗らなくなるというような、いろんな考え方があつたものですから、ちょっと考え方を教えていただきたいと思ひます。

【北海道交通企画監(座長)】

以前JR北海道からいただいた資料からの試算によりますと、地域の現在の特徴で倶知安から在来線に乗られた方、それから、共和町、仁木町から乗られた方、そういうお客さんがずっとそのまま(小樽まで)乗り続けている数が、(余市・小樽間の利用者のうち)だいたい(片道)400~500人くらい。(輸送密度が)2,000人程度の当時(2018年度)であつても、余市町から純粋に乗っている方というのは、(輸送密度)1,200~1,300人という実態であつたと思ひます。現時点では直近の情報はJRからいただいでいませんけれども、(2018年度に輸送密度)2,000人程度という前提として、(2030年度には輸送密度)1,493人と試算していまして、これよりは少なくなるという状況です。

他にございますでしょうか。

【長万部町長】

バス転換ということで表明して参つたんですが、今日ここにきて、保留にしていた町がバスという形になつて、長万部・余市間はバス転換に大筋合意ということになつてきましたので、先ほど説明の中で、バス会社と今後協議をしながらやりますという話を聞いたんですが、例えば、鉄道を廃止してバスに切り替える時期について少し早めていただけたら、例えば駅舎の設計とか色々入つてきていますから、そのあたりに反映させていただくような期日を教えていただきたいと思ひます。

【北海道交通企画監(座長)】

その件に関しては、倶知安町のまちづくりの議論について、前回の会議で町長からお話がありまして、まちづくりの観点から早く決めなければならないということと、年数ははっきりしていませんけれども、多少早くしないと工事に支障が出るというような話を倶知安町長からもお伺いしているのので、技術的な問題を含めて整理させていただいて、次回の会議の時にそういった方向性を皆さんで、早めるということを調整させていただきたいと思ひますので、少しお時間をいただきたい。

他にございますでしょうか。今日はここまでということによろしいですか。(なし)

では、以上をもちまして、本日のブロック会議は終了させていただきたいと思ひます。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

以上